

# はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL 7 NO 11 1983: 2.1

平塚市博物館 TNO82

## □昭和56年度事業報告□

### 市民が求める

#### 「生きた博物館」をめざして

「相模川流域の自然と文化」を展望しつつ、新しい時代のくらしと文化を創造することを使命とした、当博物館活動は、自然・歴史・民俗・美術・科学などの、各分野の視点を複合させた展示や、学芸員の調査研究活動、教育普及活動などを通じ、全国的に大変ユニークな、新しいタイプの地域「総合博物館」として、斯界の高い評価を受けております。特に、全国的な博物館建設ブームの中にあって、常によきアドバイザーとしての役割を担ってきました。

こうした状況下における、当博物館の、56年度の施策と事業の概要は、以下のとおりです。

〔調査研究活動の推進〕 市民が求める「生きた博物館」へ対応していくために、生物・地質・天文・歴史・民俗・考古・美術の各分野の調査、研究活動を推進し、資料の収集、分析、整理等を進めました。調査、研究活動の成果として公表した出版物の主なものは、次のとおりです。

- 平塚市博物館研究報告「自然と文化」第5号
- 平塚市博物館年報 第5号
- 平塚市博物館所蔵資料目録Ⅲ
- 展示は語る（常設展示解説）
- 相模湾の魚と漁撈（特別展図録）
- ガイドブック3 「四季の星座観察」
- 銀河 月22 23 24 25
- はくぶつかん（月刊だより）

〔展示と機材の整備〕 開館以来、新たに収集した各種資料、調査研究の成果等の市民への公開と、常設展示内容を市民の生活テーマや学習活動に対応し得る展示内容とするため、館内的一部を展示替えし、大磯丘陵の「森と動物」、相模川河口の

「川と生物」、「東海地震にそなえて」等のコーナーを開設しました。

ハクビシンのはく製標本、カモシカの骨格標本を製作するとともに、教育普及用ビデオ映像記録（「相模湾のかつお漁」、「平塚の漁業」など）を製作しました。天体観測用の反射鏡も整備し、機材の整備充実を図りました。

また、プラネタリウム屋外ドーム、冷却水系機等建物及び各種設備の補修と、体験学習会、調査研究活動などに必要な備品を整備しました。

〔博物館事業（教育普及活動）の充実〕 56年度は、下記の特別展を開催しました。

- デッサン教室作品展 期間 4/1~4/30
- 「相模湾の魚と漁撈」展 7/21~8/30
- 国際交流展「メリーランド現代美術展」 10/4~10/18
- 湘南工芸家協会展（協会に協賛） 11/12~11/22

表-1 博物館利用状況

総入館者数	うちプラネタリウム入場者数	投影回数
100,386人	26,718人	312回

また、博物館の備える機能を活用し、自然観察会（10回）、星を見る会（14回）、土曜観察会（21回）、デッサン教室（26回）、古文書講読会（20回）、体験学習（11回）等を開催して、市民の体験的学習活動を推進しました。

56年度の利用状況は表-1のとおりです。

〔経費〕 博物館活動の充実に要した経費は、下表のとおり、総額で約7,550万円余りでした。前年度の決算額は、6,852万円でしたので、対前年度比で10.2パーセントの伸び率となっています。

決算額	財源		内訳		
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他特定	一般財源
75504,157	円 500,000	円 -	円 -	円 2,359,470	円 728,446,687



## 2月の行事

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	プラネタリウム、古文書講読会
6	日	プラネタリウム
7	月	(休館日)
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	(建国記念の日・休館日)
12	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
13	日	プラネタリウム、 体験学習会「くず粉を作ろう」
14	月	(休館日)
15	火	
16	水	
17	木	デッサン教室
18	金	デッサン教室 星を見る会「冬の星雲・星団」
19	土	プラネタリウム、古文書講読会
20	日	プラネタリウム
21	月	(休館日)
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	プラネタリウム、石仏を調べる会 土曜観察会「高麗山・湘南平の自然」
27	日	プラネタリウム 地層観察会「段丘を調べる」
28	月	(休館日)

※ 2月のプラネタリウムは、「ハレー彗星 part 1」をテーマに投影します。

※ 寄贈品コーナーでは、「市内の横穴墓展」を行っています。2月15日まで。

### ☆☆☆ 3月の行事 ☆☆☆☆☆☆☆

あなたも参加してみませんか

#### ●自然観察会 「早春の大磯丘陵をたずねて」

大磯丘陵の地質や、早春の植物をたずねます。

日時 3月13日(日) 9時~16時  
(雨天中止)

コース 大磯町鷺取山付近

申し込み 往復ハガキで、2月28日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で30名まで。



#### ●星を見る会 「月と金星を見よう」

望遠鏡を使って月面と金星を観察します。月は十日月、金星はよいの明星になって西の空に輝きます。

日時 3月25日(金) 18時~20時

場所 博物館科学教室

参加自由。当日、科学教室にお集まり下さい。

\*



#### ●体験学習シリーズNo.3 「拓本墨を作ろう」

拓本用の墨を作り、拓本のとり方を勉強します。

日時 3月27日(日) 10時~15時

場所 博物館・科学教室

会費 500円

申し込み 往復ハガキで、3月18日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で30名まで。





⑦

## ハチの巣を探して

1月11日(火) はれ

博物館では、3年前から、冬になるとアシナガバチの古巣集めを行ってきた。平塚周辺には、セグロ、フタモン、キ、コ、ヤマト、キボシという6種類のアシナガバチが生息している。兵庫県などで調べられたところによると、アシナガバチは市街化の進んだ地域では種類数が減り、巣を作っている六角形の部屋の数も少なくなるという。逆に言えば、アシナガバチの種類や巣の大きさは、自然の豊かさを示すバロメーターというわけだ。そのことを平塚でも古巣を集めて確めてみよう、調査を続けてきたわけである。

学校や公民館、それに多くの市民の方々の御協力をえて、3年間に集まった巣の数は、約800個になった。それを整理し、今春の館の研究報告にレポートを発表しようと、仕事にとりかかったのは昨年末のことだった。巣の種類分けや、部屋数調べをしていくと、いくつかの傾向が明らかになってきた。市街地で見られるのは、ほとんどセグロとフタモンであること、キアシナガバチは周辺の緑の多い地域に限られていること、などである。しかし、集まった巣には地域的な偏りがあり、特に土沢地区の資料が不足していた。

そこで、急きょ土屋と吉沢を歩き、可能な限り古巣を追加してみようということにした。こういうのを泥縄と言うのだろうが、いたしかたない。今までの傾向からみた予想としては、セグロとフタモンの大きな巣が多く見つかり、キ、キボシなど種類もバラエティーにとんでいると考えられる。

11時、中沢橋から吉沢の調査を始める。水田



横から見た巣  
上：キアシナガバチ  
下：セグロアシナガバチ

の中に建てられた倉庫の軒をのぞくと、さっそく、あった。形は小さいが、フタモンの巣が二つ見つかった。山沿いの空家をぐるりと回ると、軒下にひとつ巣が見える。用意した竹ざおで落としてみると、全体が傘のような形をしたキアシナガバチだった。

アシナガバチの巣は軒下などに多いので、それを探すには、一軒一軒を訪問することになる。ある農家に入っていくと、ご夫婦でネギの皮をむいておられた。ハチの巣を探しに来たんですが。。・とたずねると、それなら牛小屋にありますとのこと。ハシゴを借りて、屋根の巣をとると、これもキアシナガバチだった。

こうして、所々で農家におじやましながら、神戸から台、さらに山入から四十畳まで足をのばした。ところが、意外なことに、見つかる巣のはほとんどはキアシナガバチで、セグロやフタモンは、ほんの少ししか見つかなかったのである。出発前の予想はみごとにはずれてしまった。

なぜキアシナガバチが多かったのだろう。緑の多い地域では、この種類が優勢なのだとみることもできる。またキとセグロがいると、体の大きいキの方が軒下を営巣場所として使うので、セグロは庭木などに追い出され、結果としてキの方が見つかりやすい、こう考えることもできる。

また、巣の大きさが予想より小さかったことも気になった。その原因は、自然の豊かな地域には、天敵も多いことにあるのかも知れない。アシナガバチを襲うスズメバチの巣が、あちこちで見られたり、またハチの巣を食べる"キガシラトビイロシマメイガ"というガに食べられてぼろぼろになつた巣もいくつか見つかった。

野外の調査は、進めば進むほど新しい疑問が出てくる。しかし、とりあえずの中間報告としてのレポートは書かなければならない。締め切りは1月20日。今、一番ほしいのは「時間」である。

(浜口学芸員)



鳥良・庭先に  
ジョウビタキ

## カノーブス

カノーブスとは1等星、それも全天で2番目に明るい1等星の名前です。

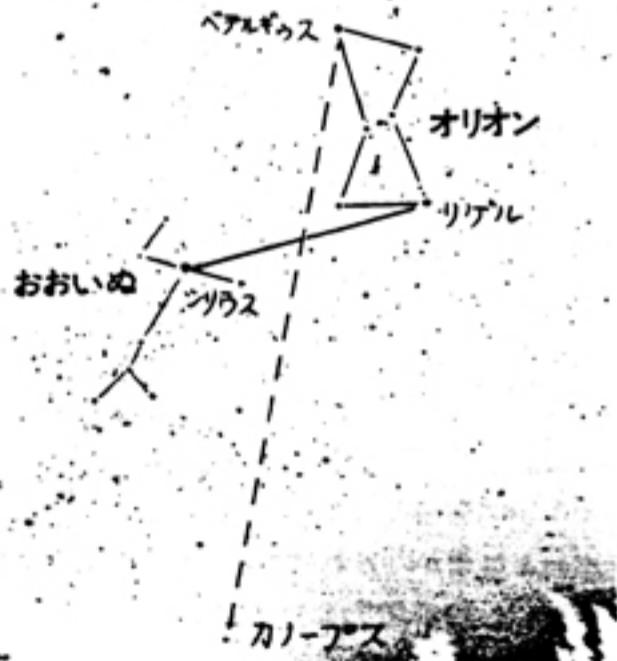
この星は、オリオン座など冬の星座や星たちの話題にかかすことのできない星ですが、見たことのある人はほんの少ししかいない貴重な星です。

カノーブスがなかなか見られない理由は、カノーブスの位置が52度という南にあるため、平塚でいちばん高くなる時でも地平線から約3度しかならないためです。少しでも南に雲が出ていたら見えてなくなってしまう高さです。

カノーブスがいちばん高くなるのは、オリオン座が真南から西へ少し傾いた頃です。2月上旬で午後10時、下旬なら8時頃です。その頃、南の水平線まで良く晴れた日にさがすと、赤っぽく光る星が見つかります。まわりにあまり明るい星はないので見まちがえることはないでしょう。

中国では、カノーブスを「南極老人星」と呼び、この星をひと目見れば長生きするといふ、めでたい星としていますので、一度ごらんになってください。さがし方は、図のように、オリオン座の赤い1等星のベテルギウスから下へたどっていけば見つかると思います。

(属 学芸員)



# —みんなのサロン—

「なんでも書いてみよう」ノートより

1/16.

博物館へ初めて来たのは久しぶりです。博物館は初めてお会いは小学校に入りたての頃だったと思います。母に連れられて行った上野の科学博物館を見た記憶が薄い... 15年以上たった今でも目に浮かびます。それ以来「博物館大好き人間」になってしまったのです。それがきっかけで博物館に行くことも多く、今日は久しぶりに来ました。

展示を見ては次の質問がわいてきます。教えてほしいことがいっぱいあります。ひとつひとつ詳しく説明してくれるガイドさんをねがうたいます。

とにかく今日は久しぶりに学生にもどったような気分で楽しめたかったです。また来ます。

裕。

## 博物館から

展示についての詳しい説明は、体験学習の展示解説書と受付で貰えます。お読みください。また、「いつばら」質問欄にてご質問下さい。丁寧に答えてもらいたいと思います。三階の学生食堂を気軽に立ち寄り下さい。質問が次々に涌いてくるときの、所長様の「さういふ新鮮な気分を、私たちも持ち続けさせてもらいたい」と思っています。

## 受入寄贈資料

- 1. 8 木車、クルリなど 平塚市岡崎 4,2
- 8 7 杉山要助様
- 9 銃剣 平塚市千石河岸 17-11
- 後藤武夫様
- 21 木鉢 平塚市平塚 1,133 石原キン様

御協力を深く感謝いたします。

## 「はくぶつかん」スタッフから

「はくぶつかん」をもっとおもしろくて、楽しいものにするために、あなたの意見、ご感想をぜひお聞かせ下さい。

(あて先) 〒254 平塚市浅間町 12-41

☎ 0463(33)5111

平塚市博物館

「はくぶつかん」スタッフまで  
どんどんお寄せくださいのを待っています!